

## 2024年11月実績概要（メモ）

（2024.12.19）

年内の定修もほぼ終了しつつある中、誘導品類の生産は化成品へのバイアスがかりつつある。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 430,800トン

前月比 +4.0% (+16,400トン)  
前年同月比 ▲8.0% (▲37,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	+ 6.5%	▲ 0.5%
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 0.7%	▲ 7.5%
生産増減率	+ 4.0%	▲ 8.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月77.4% → 当月78.0% ← 前年同月84.1%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

2024年1～11月累計生産量 4,516.8千トン 前年同期比 ▲6.7%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少に対して、定修規模の差等からPS、SM、EG、AN、SBR、キシレンなどの12品目がプラス。HDPE、塩ビ樹脂、BRなどの5品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、HDPE、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、BRなどの10品目がマイナス。PS、EO、EG、トルエンなどの7品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数減があったが、定修規模差等からLDPEは前月並み、PSは大幅なプラスとなった。HDPEは稼働率要因からマイナス、PPはほぼ日数減見合いのマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、LDPEは前月並み、PP、PSはプラス、HDPEはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドに関しては、改善の動きが続いているが、物価上昇が下押し圧力となり、足踏みの状況が続いている。国内の生産活動全般は、10月は、生産機械、自動車等での上昇が見られた。11月の予測では、半導体向けの生産機械での生産の低下の予測も出されているが、生産活動のマインドのトレンドとしては依然、強気の姿勢が維持されている。

汎用樹脂の出荷は、前月比では、ユーザー側の稼働日数の減少や原料情勢から、LDPE、HDPE、PPの3樹脂はマイナス。前年比は、4樹脂揃ってのマイナスとなり、出荷レベルとしても近年では低め出荷となった。

分野別の出荷動向としては、フィルム等の包材分野は、前年比でPPのみはプラスが継続しているものの、LDPE、HDPE、PSはマイナスとなった。包材以外の分野では、前年比で、HDPEの射出成形分野が前年比でプラスが継続するも、LDPE、PP、PSの多くの分野では出荷が減少することとなった。

ハ) 輸出

原油価格の下落基調に推移する中、主要市場である中国の人民元相場下落も相まって買い付けが鈍い状況にある。前月比は、LDPE、PSはプラス、HDPE、PPはマイナス。前年比はPS以外の3樹脂とも前年割れとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPEは減少、PP、PSは僅かに増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPEは前月並み、HDPE、PP、PSは若干上昇した。在庫水準としては、LDPEはやや高め、HDPEは高め、PP、PSは適正水準の範囲内に留まっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LDPE	▲ 400	3.4	3.4
HDPE	▲ 3,000	3.6	3.8
P P	+ 1,700	3.0	3.1
P S	+ 3,400	1.6	1.8

以上